なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方にお知らせする情報誌です。

VOL.61
発行 / 平成 26 年 7 月

旬を迎えた一本槍（ケンサキイカ）

調査情報
・海況情報……2
・ウナギの安定供給に向けて……2
・春季にカレニア・ミキモトイ赤潮が発生……3

研究情報
・福岡湾におけるテナガダコの生態について……4

なみなみニュース
・糸島漁協が天然マダイをＰＲ……5
・豊築漁協　料理教室を通じて豊前海の幸をＰＲ……5
・藻場・干潟の保全活動を支援……6
・貝毒プランクトン同定研修会を開催……6

研究員紹介
・豊前海研究所　主任技師　俵積田　貴彦……7

普及だより
・有明海区研究連合会の石田さんが水産庁長官賞を受賞！……7
・漁業の６次産業化にチャレンジ！……8
・ふくおか農林漁業新規就業セミナー・就業相談会を開催……8

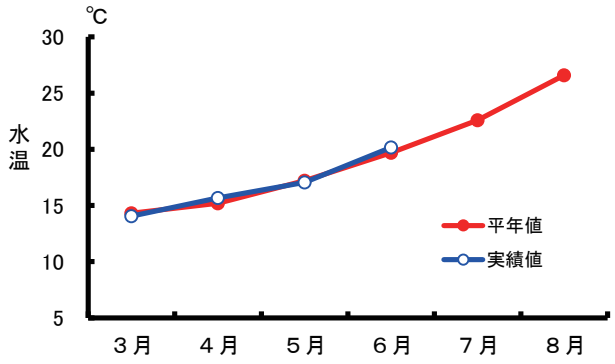
調査情報

海況情報

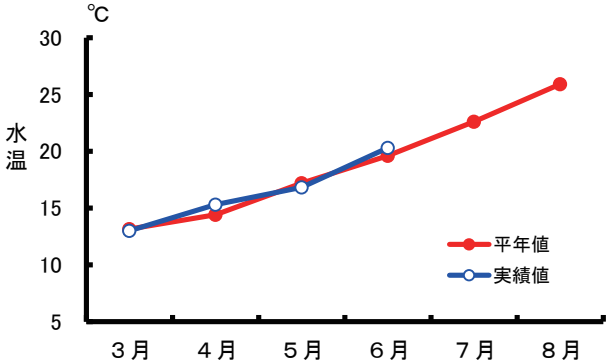
４～６月の表層水温は、筑前海では、沖合域は平年並み、沿岸域では４月と６月がやや高め、５月が平年並みでした。

有明海では、平年並みでした。

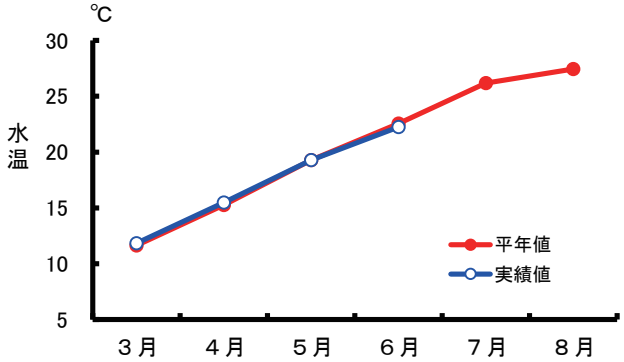
豊前海では、４～５月は平年並み、６月がやや高めでした。



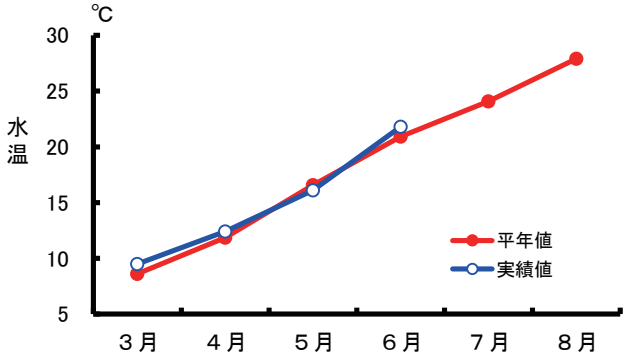
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

ウナギの安定供給に向けて

ウナギ養殖では、天然漁場で採捕されるウナギの幼魚（シラスウナギ）を利用しています。その採捕量は最近、大きく減少し、ウナギ養殖の存続に関わる問題となっています。

一方、ウナギの生態については、依然不明なことが多いままです。そこで、ウナギについて基礎的な知見を得るため、11県16機関が連携したプロジェクトが進行してます。この中で、内水面研究所は、筑後川におけるシラスウナギの来遊状況や、産卵のため川を下るウナギ（銀ウナギ）の出現状況の把握に取り組んでいます。昨年度は、シラスウナギが１月下旬から５月下旬まで来遊したことや、９月下旬から10月下旬に銀ウナギの存在を確認しています。

遡上してきたウナギ幼魚

（左：採捕された幼魚　右：幼魚は半透明の体色）

（内水面研究所）

春季にカレニア・ミキモトイ赤潮が発生

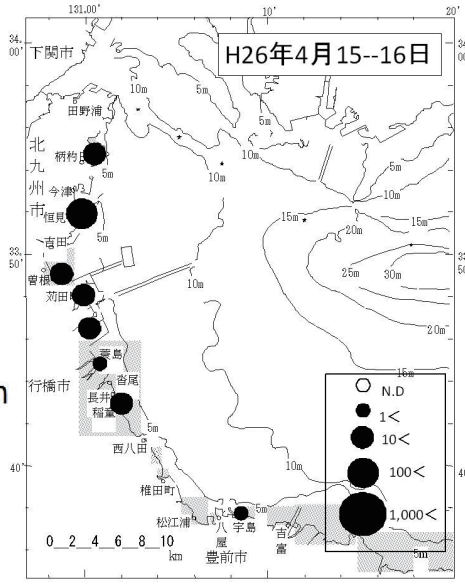
豊前海では、今年の４月中旬からほぼ全域で有害プランクトンの一種「カレニア　ミキモトイ」が増殖し、５月７日には一時的に苅田港付近で海水１ml中あたり1,030細胞となりました。

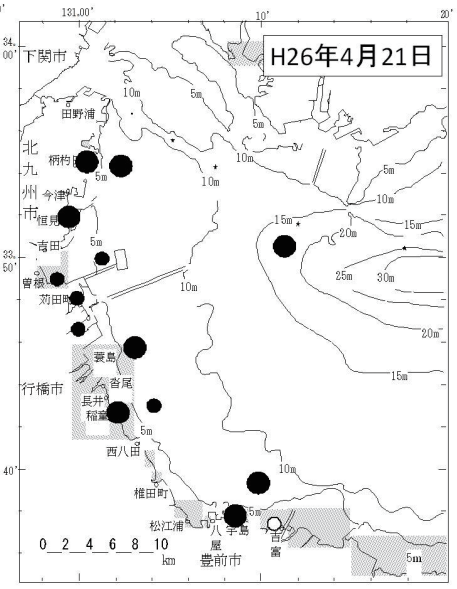
本種は海水１ml中あたり1,000細胞以上に増殖すると魚介類をへい死させ、漁業者からはこの赤潮によるものと思われるコウイカ等のへい死が報告されています。

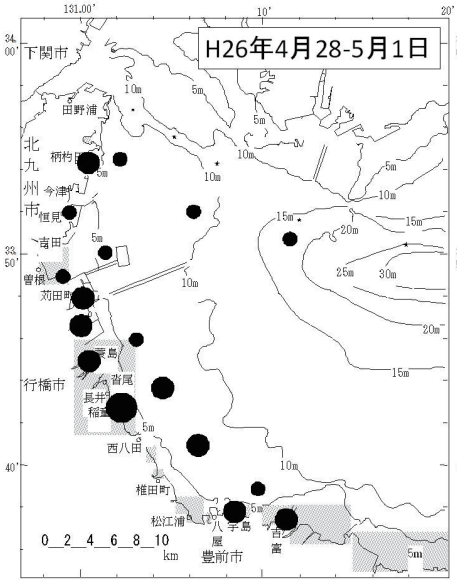
本種は、通常６～８月の夏季に赤潮を形成しますが、今回のように春季に赤潮を形成するのは大変珍しく、豊前海では過去30年間事例はありません。

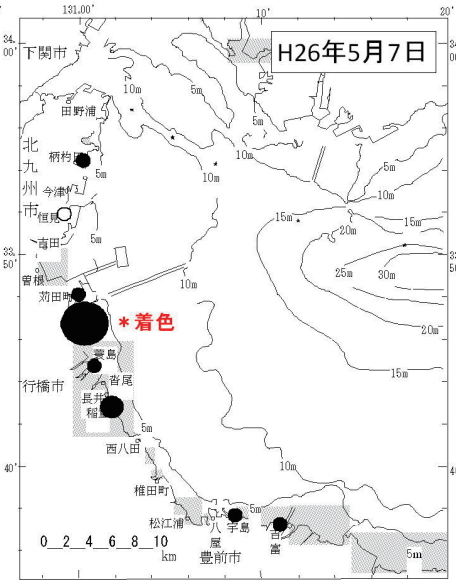
センターでは、赤潮による漁業被害を抑制するため、豊前海区のみならず、各海区で有害プランクトンの監視を継続していきます。

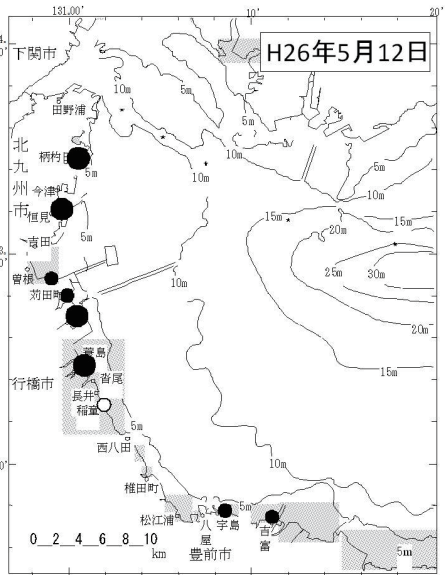
カレニア　ミキモトイ











（豊前海研究所）

研究情報

福岡湾におけるテナガダコの生態について

福岡湾においてテナガダコは、主に小型底びき網漁業やかご漁業によって漁獲され、その多くが韓国に食用として輸出されています。また、県内では、食用の他、はえ縄漁業の餌としても利用され、重要な魚種の一つです。

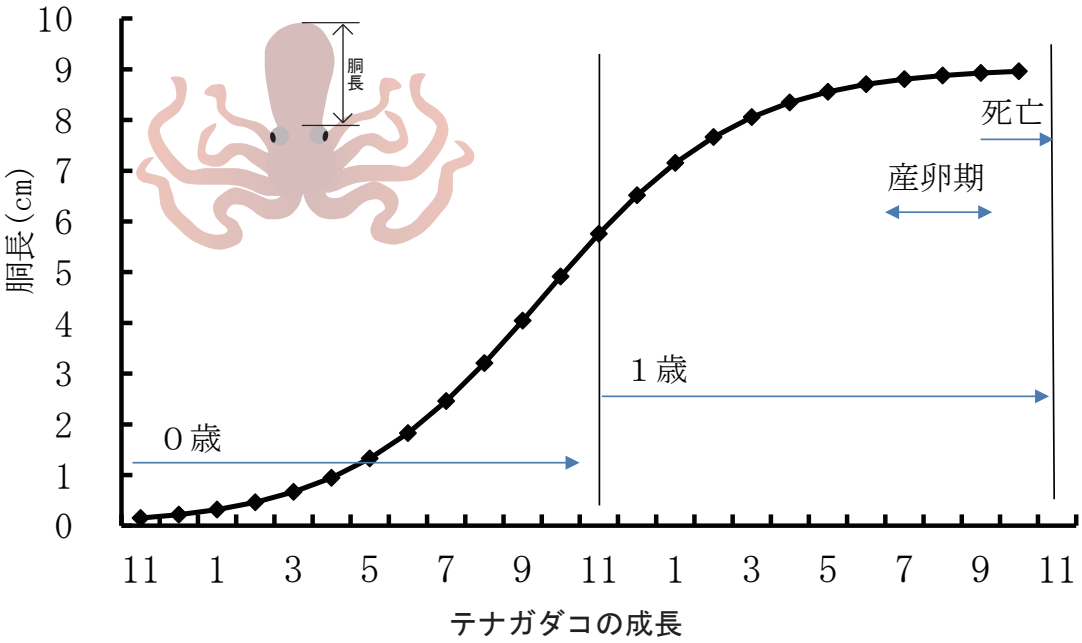
福岡湾では、テナガダコの漁獲量は１年おきに豊漁と不漁を繰り返しています。安定した漁獲を維持するためには、資源管理の取組が不可欠ですが、その生態は不明な点が多いため、今回、調査を行いました。

その結果、産卵は、主に８～９月に行われることがわかりました。９月に産卵された卵は、11月に胴長（俗にいう頭の長さ）７㎜で孵化し、翌年９月には40㎜、翌々年の７月には約90㎜以上となります。その後産卵し、10月頃に死亡することから、寿命は約２年であると推定されました。

テナガダコは、本海域で生活史が完結していると考えられるため、資源管理に取り組みやすい魚種であるともいえます。今後は、資源管理手法を検討し、持続的な資源利用を図ることが重要です。

テナガダコ

テナガダコの卵



（研究部）

なみなみニュース

糸島漁協が天然マダイをPR

糸島漁協が、市町村別漁獲量で日本一となった糸島市の天然マダイを知ってもらおうと、福岡市博多区の百貨店で行われた催事に出展し、マダイの刺身や干物、揚げ天などの試食販売を行いました。さらに、糸島地区への集客拡大のため、直売所やカキ小屋など、漁協が進める地産地消の取組もＰＲしていました。

来場者の中には、糸島市民の方も多く、自身の住む街の魅力を再認識されたようでした。

来場者に天然マダイをＰＲ

豊築漁協　料理教室を通じて豊前海の幸をPR

豊築漁協が、６次産業化支援企業と連携し、福岡市中央区で料理教室を開催しました。

今回は、コウイカやヨシエビなど豊前海の幸を使ってイタリア料理に挑戦するというもの。調理実習の前には、漁協の担当者が、豊前海のことをよく知ってもらおうと漁業や魚について映像を使って説明していました。実習では、女性漁業者が先生となり魚のさばき方の実演を交え受講者に説明しましたが、あまりの早業についていけない場面も。最後は、どのテーブルもとてもおいしそうな料理に仕上がっていました。

さばき方を説明する漁業者

豊前海の幸でつくったイタリア料理

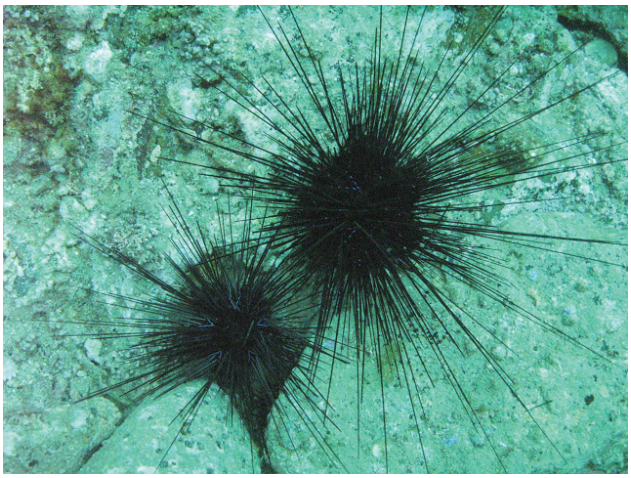
藻場・干潟の保全活動を支援

藻場や干潟は、水質や底質の浄化や、多くの生き物の産卵・成育の場などの役割を果たす重要な場所です。 県内の各浜では、藻場・干潟の役割を十分に発揮させるため、その保全活動が行われています。

今年度も活動計画検討会が各浜で開催され、センターから職員が参加して海藻を食べるウニ類の効果的な除去や海藻の保護・増殖に関する技術的な助言を行っています。

これから実際の活動が始まりますが、センターでは各種活動の技術指導や効果調査など、引き続き、漁業者を支援していきます。

活動計画検討会

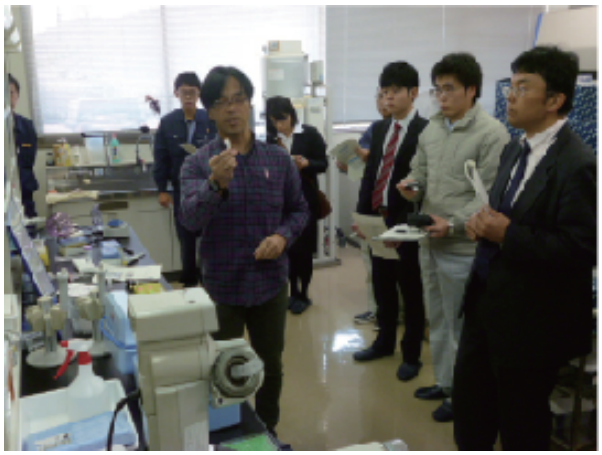


藻場への影響が懸念されるガンガゼ類

貝毒プランクトン同定研修会を開催

県では、貝毒による健康被害を防ぐため、貝毒プランクトンの発生状況などを定期的に調査しています。一方、貝毒プランクトンと良く似た無毒の種類も多く、その同定には高度な技能が必要であり迅速で精確な同定が難しい状況でした。

このような中、(独) 水産総合研究センターがLAMP 法による簡便な同定方法を開発しました。当センターでは、この技術を導入するため、水研センターから講師を招き研修会を開催しました。今回、九州海域の監視体制強化の観点から、本県職員はもとより九州各県にも参加を呼びかけ、多くの担当者が集まりました。研修会では、各担当者ともこの技術を習得しようと講師の説明を聴き入っていました。



貝毒プランクトン同定研修会

研究員紹介

豊前海研究所　主任技師　俵積田　貴彦

お世話になります。今年度から豊前海研究所に配属された俵積田貴彦と申します。新規採用時以来の２回目の登場になります。長い名字ですので『タワラ』と呼ばれがちです。電話口で聞き取りにくい名字だな、と思われたら僕の可能性が高いです。今後ともよろしくお願いします。

新規採用で豊前海研究所に３年、漁業管理課に５年、そして再び豊前海研究所に戻ってきました。漁業管理課にいた頃は豊前海区や筑前海区を担当させてもらい、漁業者さんと様々な意見交換させてもらいました。現場の海上となるとブランクがありますので、いち早く現場の感覚や船の揺れに慣れ、現場サイドから漁業者さんと様々な意見交換させていただければと考えています。

業務の担当は、赤潮や魚礁調査等です。海の色の異変等があればご連絡ください。緊張感をもち、初心に戻って業務に臨みたいと考えています。

趣味は野球・ガーデニングですが、野球についてはガラスの肘・肩・腰に、ガーデニングについては知識の乏しさに悩まされておりますが、まずは体力と知識を身につけたいと思っております。

それではこんな私ですが、何とぞよろしくお願いします。

普及だより

有明海区研究連合会の石田さんが水産庁長官賞を受賞!

第 64 回浅海増殖研究発表全国大会が、６月 12 日に香川県高松市で開催され、有明海区研究連合会の石田勝吉さん（高田漁協）がノリ養殖に関し「７年間の集団管理の成果について」という課題で発表し、水産庁長官賞を受賞しました。

石田さんらは、平成 19 年度から大和高田地区で取り組んだノリの集団管理について総括し、病気による被害が軽減したこと、入札結果のデータ分析から黒くてつやのある「本」等級製品の比率が向上したことを報告しました。

これらの取組が評価され、今回の受賞となりました。

表彰式での福岡県代表
（左が発表者の石田さん）

漁業の6次産業化にチャレンジ!

○島で唯一の食堂経営にチャレンジ!

宗像漁協地島支所の漁業者グループが、漁獲物の価値向上と地域の活性化を目指し、漁師食堂「御食事処　なごみ」を昨年末にオープン。食堂では、女性漁業者が中心となり、地島ならではの新鮮な海の幸を用いた定食や弁当、加工品を販売しています。まだまだ、知名度が低いことから、現在、新メニュー開発やＰＲ活動に奮闘中です。

食堂の外観

食堂で提供している料理の一例

○コショウダイの付加価値向上にチャレンジ!

豊前海で水揚げされるコショウダイ。おいしい魚ですが、初夏にまとまって漁獲されることから、低価格で取引されています。このような中、豊前海区小型底曳き網漁業者協議会では、コショウダイの付加価値を高めようと加工品開発に取り組んでいます。先日、当センターの加工機器のオープンラボを使用し、コショウダイの味噌漬けやかまぼこを試作し、試食しながら、今後の展開について意見を交わしていました。

コショウダイを使った加工品開発

ふくおか農林漁業新規就業セミナー・就業相談会を開催

福岡県では、農林漁業への就業希望者に対して、就業に必要な情報の提供、就業に関する相談会を開催します。関心のある方は、ぜひ、ご来場ください。

日　　時　平成 26 年８月 17 日（日）13:00 ～ 16:30
場　　所　ＪＲ博多シティ　10 階　会議室
問合せ先　福岡県農林水産部水産局水産振興課　TEL092-643-3563

＜編集発行＞福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819－0165　福岡市西区今津1141番地1
TEL　092－806－5251　FAX　092－806－5223
センターホームページ　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/
携帯電話対応　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/